

平成23年度

施政方針

平成23年2月

飯山市

平成23年度 施政方針

平成23年3月定例市議会の開会に当たり、平成23年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

昨年9月就任以来およそ半年がたちました。北陸新幹線開通が間近に迫るなかでの市政運営であり、飯山市とこの岳北地域が抱える重要課題は数多くございますが、一步一步課題を解決しながら、夢のある、活気ある飯山市の実現に向けて、邁進（まいしん）する所存であります。

就任時に述べましたとおり、多くの先人が築いた「悠久（ゆうきゅう）のふるさと飯山」を次の世代に伝えるということ、そして、市民の夢でありました「新幹線飯山駅開業」に向けてのまちづくりに全力を注いでまいります。

そのための重点施策として、選挙公約に掲げました「新幹線飯山駅開業に向けての魅力あるまちづくり」「産業振興と雇用対策、定住施策」「飯山らしい教育と文化の香る地域づくり」「子育て支援や高齢者がいつまでも安心して暮らせる地域づくり」と「健全財政運営、人材育成、防災対策」の5項目について市民と力を合わせ進めてまいりたいと思います。

23年度は過疎脱却に向けた計画実行の実質初年度として、また、新幹線開業にむけての活気あるまちづくり整備という、将来の飯山市の方向を決める重要な年であることを充分認識しながら市政運営を進めて参ります。

昨年11月に「まちづくり課」を設置し、今年になってからは各専門家による「まちづくりデザイン会議」を立ち上げてきたところであります。

《四季の変化を活かした美しく景観に富んだまちづくり》を念頭に、市街地のランドデザインを検討し、飯山の歴史を活かしたまちなみ整備を進めることで、活気あり、魅力あふれるまちづくりが可能になると信じています。

飯山市の資源（人、物、金）を掘り起こし、新幹線開業という市民の夢が花開くように準備をすすめてまいります。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等をご説明申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

2011年度、国の経済見通しは、2010年後半にエコポイント・エコカー補助金の終了により個人消費が落ち込んだことで、景気が一時減速はしましたが、米景気の回復、あるいは中国など新興国への輸出が好調なことにより、通年では前年度GDP比1.9%減程度にとどまるとみられ、11年後半に景気は持ち直すとされています。

しかしながら、原油価格など、輸入資源の高騰が円高を吸収し、国内経済に影響を及ぼすおそれがでてきており、経済情勢は依然として混沌（こ

んどん) とした状況が続くと思われます。

また、国の新年度予算案も、税収の低迷、マニフェスト関連経費・社会保障費増などに対応するため、新規国債発行が2年連続で税収を上回る異常事態となっています。

さらに、昨年夏の参議院選挙結果によるねじれ国会が続いており、23年度予算の行方が心配されるところでもあります。年度内に予算関連法案が成立しない場合、国民への影響と共に地方への影響も少なからずあると思われますので国の動向について充分注視していきたく思います。

長野県にあつては、昨年夏の県知事選挙により、阿部県政が発足しました。知事は県民との協働、共創(きょうそう)を掲げており、「ともに支える確かな暮らし」を実現するための予算案を提案するなど県民と共に県政運営することを訴えています。特に、市民の関心が高い「元気づくり支援金」については22年度と同額を計上していますので、本年度と同様、支援金活用による地域活性化が出来ると思われます。また、「中期総合計画」の見直しにより、県と市町村の役割分担を考えているようですので、住民生活を守る観点から、市の代表として、しっかり意見を述べてまいりたいと思ひます。

このような環境下、飯山市の財政も厳しい状況ではありますが、新幹線開業に向けた過疎計画実質初年度ということで、一般会計予算規模を

136億円とし、22年度当初より6億円増の積極予算を計上いたしました。市税及び交付税の伸びが見込めないなか、過疎債等借入金を約12億円計上しての予算編成となっております。

しかしながら、借金返済のピークは過ぎ、返済金は年々減少してきています。借金残高も普通会計の22年度末残高で82億円程度と、ピーク時の14年度末に比べ半分以下となっており、下水道等の繰出金がピークを過ぎたことなどから、将来的な債務が大幅に増加することのない様、健全財政に努めてまいりたいと思います。

長期財政計画を策定するなかで、新幹線関連・過疎対策事業等、大型事業に対応しながらも、長期的に安定した財政運営を進めたいと考えています。

それでは、平成23年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で136億円、前年度対比プラス4.6パーセント、6億円の増であります。

歳入面では、市税を前年と同額の23億円計上し、交付税を前年度マイナス5千万円の55億5千万円で計上、不足分を市債及び繰入金で対応しました。

歳出につきましては、前段申し上げたとおり、公約の5項目及び過疎計画に基づく具体的な事業を中心に、市単経済対策事業や、市民生活に密着した事業など、多岐にわたり計上をしながらも、事務事業評価結果による

枠配分を行うなど、メリハリをつけた予算編成となりました。

基幹収入が縮小するなど限られた財源の中、より効率的に、そして、地域経済及び市民が活性化するよう事業推進を図ってまいりたいと思います。

以下、「公約の重点政策5項目」に関わる事業についてご説明申し上げ、23年度の市の姿をご理解頂ければと思います。

一つめは、今後の市政運営にとって最重要課題であります『新幹線飯山駅開業に向けての魅力あるまちづくり』への取組みであります。

冒頭申し上げましたとおり、新幹線飯山駅開業がいよいよ間近に迫ってきました。駅舎デザインも決まり、駅舎や高架橋が日に日に完成してくるなど、開業へのカウントダウンが目に見えてきています。

しかしながら、開業までに魅力あるまちづくりが出来なければ、飯山駅がたんなる通過駅として終わってしまいます。『まちづくり課』を中心に、魅力あるまちづくりへの施策に全力で取り組んでまいります。

具体的事業としまして、引き続き区画整理事業を推進すると同時に、立体駐車場やアクセス道路を含めた駅環境の補完施設整備を、開業までに計画的に進めてまいります。

また、22年4月の開館から、15万人を超える入館者がありました「高橋まゆみ人形館」を核とし、市街地を中心に「回遊性のあるまちづくり」整備を行いながら「まちなか観光推進」や「まちづくりデザイン会議」な

ソフト事業を一緒に取り組むことで、まちなかの活性化を図っていきたくと考えています。

市のシンボルである「飯山城跡整備」に向けての基本計画策定など、飯山市の特徴を活かした魅力あるまちづくり事業も実施してまいります。

二つ目は、『産業振興と雇用対策、定住施策』への取り組みであります。

22年国勢調査の速報値で、飯山市の総人口が23,548人となり、前回5年前の調査と比べ1,412人減少しました。この現状を何とかすべく、産業振興と雇用対策、そして、定住施策という喫緊の課題について重点的に取り組む必要があります。

まず、産業振興と雇用対策として、新たな支援策を含めた『企業誘致』を積極的に進め、若者が安定的に働ける雇用の場の確保に努めます。

また、『まちなか』を中心に、空き店舗活用や起業者支援の拡充を図る他、観光施策として「湯滝温泉施設」や戸狩温泉スキー場「パノラマホール」森の家「森林セラピーロード」など観光施設のリニューアルを行うことと合わせ、「新幹線開業に向けた誘客イベント」「インバウンド推進」など国内外観光客の誘客事業や、「統合型GISコンテンツ情報発信」「歩こさ飯山グレードアップ」という情報発信事業など、ソフト施策にも力をいれていきたいと考えています。

そして、市の基幹産業であります農業振興策として、経営体の育成、アスパラガス再生のための雨よけ施設、あるいは土壌改良の支援事業を実施

してまいります。

また、国の補助を受けた土地改良事業として、「団体営基盤整備」を行うほか、鳥獣被害対策としてモデル的に『電気柵設置』補助を実施するなど、各種事業実施により、飯山市農業の活性化を推進するものであります。

次に、定住施策ですが、引き続き「いいやま住んでみません課」を中心に各種移住・定住推進事業を行う他、冬期の道路交通確保のため、主要市道の整備や除雪融雪対策を実施してまいりますし、弱者・高齢者への交通対策として、利便性が高く、より効率的な公共交通システムの検討経費を盛り込むなど、住民生活の足の確保に努め、定住のための環境整備を行います。

三つ目は、『飯山らしい教育と文化の香る地域づくりの推進』であります。

教育環境整備は、飯山の将来を担う子ども達を育てるために必要不可欠な施策であります。

「ふるさと飯山」を愛し、守り続ける子ども達をより多く育てるため、飯山市のすばらしさを伝えるとともに、子ども達の『考える力』を育む(はぐくむ)教育について、より効果が上がるよう具体的に取り組んでまいります。

また、飯山の宝であります、「歴史・芸術・文化」を活かした地域づくりの視点もまちづくりには不可欠であります。この地方にしかない「歴史・芸術・文化」をクローズアップし磨きあげることは、飯山を一段上のス

ページにステップアップさせるものと考えます。

具体的な事業としまして、「学力向上総合対策事業」を新たに実施します。

小学校・中学校・高校の連携により英語・数学の学力向上を図る事業であります。

更に、国際化時代に向け、外国との交流により国際感覚を早い年齢から身につけてもらうため、中国深圳（しんせん）市との学校交流の他、英語圏の交流を事業として進めて参りたいと考えております。

また、平和学習として、広島平和記念式典への派遣に中学生の参加者数を増やすなど、多くの子ども達に平和について考える機会を設けたところです。

そして、体力の向上と精神力を養う、ジュニアスポーツの振興にも力を入れていきたいと思っております。

その他、飯山小学校校庭への夜間照明設置や、「ふるさと館」を核とした「ふるさと学習」の推進も引き続き取り組んでまいります。

文化の香る地域づくり推進事業としましては、現市民会館が老朽化し耐震性も確保できないことなどから、市民会館機能を含めた新たな施設として、「(仮称)飯山ぷらざ」建設に向けた基本設計費用などを新規に計上いたしました。

また、24年1月は、飯山市にスキーが伝来してからちょうど100年になりますので、「スキー伝来100周年誌」の発刊や、各種スキー伝来100周年記念事業推進を行うほか、「市営飯山シャンツェ」整備を記念事業

として行うなど、スキー伝来100周年を盛り上げるための事業を予定しています。

その他、地域の課題と宝物の検討を通して地域力再生を行うための経費や美術館施設整備、あるいは長峰運動公園内のスポーツ施設リフレッシュ整備等過疎債を活用しながら事業推進を実施してまいります。

四つ目は、『子育て支援や高齢者がいつまでも安心して暮らせる地域づくり』への取組みであります。

移住・定住と合わせ、少子化対策としての子育て支援は、緊急に取り組まなければならない大きな課題であり、積極的な事業推進を行ってまいります。

その一つとして、新年度より、3人以上の子どもがいる家庭において、第3子以降の子どもを保育園等に入園させる場合は、保育料等を無料にします。

また、乳幼児・児童等の医療助成について、今までの対象年齢であった小学6年生までを、中学3年生までに拡大し、医療費負担の軽減も図ります。

その他、各種保育サービスの充実、放課後留守家庭対策としての「児童館・学童クラブ」の運営、「飯山小学校児童センター」整備に向けての設計、「しろやま保育園改築」のための設計、子育て相談事業や「子育て支援センター」運営、「子宮頸がん等ワクチン接種促進」事業などを実施してまい

ります。

子どもが元気で、子育て世代が安心でき、経済的な負担を軽減するなど、子どもを産み育てる環境整備を整えることにより、少子化に歯止めをかけていきたいと思います。

高齢者や障害者が安心して暮らせるための地域づくりも重要であります。

年明けには高齢者に対する実態調査もさせていただきました。今後はこの調査結果を参考に施策を進めていきたいと考えています。

高齢者が安心して暮らすためには健康であり続けることが大事であります。新年度からは、医師確保のため医学生の奨学金制度を新設します。

また、要介護とならないための各種予防事業や、病気の早期発見をするための健康診査事業、あるいは予防接種事業などを行います。

そして、冬も安心して暮らせるよう「災害救助員派遣事業」も引き続き行いますし、高齢者・障害者が暮らしやすい飯山市となるよう、国の交付金を活用してグループホームがスプリンクラーを設置する際の支援補助や、重度障害者等がタクシーを利用する制度について、距離に応じた乗車券の配布とするよう見直しを図るなど、各種福祉施策を積極的に進めることで、誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進します。

最後は、『健全財政運営、人材育成、防災対策』の取組みであります。

各種施策推進にあたっては、健全な財政運営は必須であります。担税力の低い当市ではありますが、行財政改革を進め、なるべく借金をせずに事

業推進してきたことで債務が大幅に減少し、21年度普通会計決算において、『実質公債費比率』が国の基準である18%を下回ることが出来ました。

今後、過疎債を活用し事業を推進するわけですが、長期財政計画に基づき行政評価による事務事業の見直しを継続的に行い、重要課題を優先させた効率的な投資により、将来債務が大幅に膨らむことのないよう健全な財政運営を進めていきたいと思っております。

そして、人材育成であります。『課題解決型組織』を目指し、課題や目標を明確にするなかで、迅速に課題解決するための専門性を持った職員育成が急務でありますので、専門分野の人材育成を重視し、行政需要に対応できる人事管理を進めたいと考えています。

最後に防災対策であります。幸い、ここ数年大きな災害はありませんが、いつ災害が発生しても対応できる体制づくりが必要であります。

23年9月には、県の総合防災訓練が飯山で行われますので必要経費を計上しました。市民の皆様のご協力もお願いいたします。

その他、消防団第3分団（木島地区）消防ポンプ自動車の更新や、引き続き過去の災害時の水位標識設置を市単独で行う事業等も実施いたします。

以上、私の公約に基づく重点施策について申し上げます。

さて、依然地方の経済情勢は厳しい訳ですが、国の経済対策とは別に、単独で経済対策事業等を実施いたします。

一つは、地元商店活性化のため、商工会議所が発行するプレミアム20%

の商品券発行に対する支援実施であります。総額6千万円（プレミアム1千万円）の商品券を発行する予定です。

次に、中小規模事業者向けに、「活性化センター整備」「市道舗装修繕等整備」「保育所等施設リフレッシュ」「小中学校営繕」など、市単公共事業として2千万円余を計上したところです。

また、小規模事業者向けに、市民が住宅リフォームを市内事業者に行ってもらった場合に支援する経費として5百万円を計上いたしました。

その他、請負業者が工事を受注した際の資金繰り対策や、立地企業支援として、税の減免あるいはリース資産助成要件の緩和を行うなど、各種対策の実行による地域経済の活性化を目指しています。

その他、市民と市が協働して行う事業として、新たに「協働のもりづくり事業」を創設しましたし、地域づくりや集落活動を支援するための事業など市民との協働による新たな公共事業の推進、そして、市民のご協力により進めています『ごみ減量化』につきましても、23年度が目標である18年度比20%減の最終年でありますので、精力的に取り組んでまいります。

最後になりますが、先に申し上げましたとおり、来年は飯山市にスキーが伝来して100年になります。飯山市にとってスキーは、スポーツあるいはレジャーとして身近なものでありますし、何といたっても一つの大きな産業であります。1世紀にわたり、雪国飯山の大きな財産としてスキーは

位置づけられてきました。市民の皆様のご協力をいただきながら1年を通じて「スキー伝来100周年」を盛り上げていきたいと思いをします。

私にとって実質1年目の予算であります。財政力に乏しい当市ではありますが、公約実現にむけ、最小の費用で最大の効果が発揮できるよう、スピード感を持ちながら、新幹線開業という夢に向かって職員共々邁進する決意であります。

市民と共に市政発展のため努力する覚悟ではありますが、議員各位のご支援ご協力が不可欠でありますので、深くお願い申し上げ、所信表明と致します。

平成 23 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則



2012年 飯山市スキー伝来100周年

